

川内原発 1号機に続き2号機も停止へ 「テロ特重施設」設置の遅れで

九州電力は5月20日、川内原発2号機が、テロ対策のために建設を義務づけられている「特定重大事故等対処施設」（テロ特重施設）の設置が期限までに間に合わないために原子炉を停止し、定期検査に入りました。稼働中の原発が特重施設完成の遅れで停止するのは、3月に停止した川内原発1号機に続いて2例目です。

特重施設は、テロ攻撃を受けた時、遠隔（原子炉から100メートル以上離れた場所）で原子炉を制御（冷却水を循環させるなど）する緊急時制御室などからなり、新規基準で設置が義務付けられ、川内2号機は5月21日が設置期限でした。九電は、2号機は来年1月下旬までの停止を予定しています。

“3密”必至の検査・工事は中止せよ ～ 原発ゲート前で抗議集会

川内原発2号機が5月20日、運転停止し定期検査入りすることを受けて、鹿児島県の市民グループ「ストップ川内原発！3・11実行委員会」の呼びかけで、原発ゲート前で抗議集会が行なわれました。

3月16日に運転停止した1号機に続く2号機の停止に伴う定期検査入りで、1、2号機合わせて社員約450人、協力会社の作業員約2300人、あわせて3千人近い労働者が定期検査の作業にあたります。コロナウイルスの感染拡大防止で県境をまたぐ移動の自粛が求められている中で、1号機につづく2号機の作業に全国各地から3千人近い作業員が集まっている作業は、“3密”状態の作業となることが必至とみられます。こうした中、同じ九電の玄海原発のテロ対策工事では作業員2人がコロナウイルスに感染し、工事を中断していました。

抗議集会には、鹿児島県内から約40人が参加、工事中止を訴えました。地元住民や参加団体の代表がリレートークし、「原発を動かさないことこそ、唯一のテロ対策」「小さな地震が起きるたびに身のすくむ思いをしています。1、2号機とも、定期検査後も動かさないことが命と暮らしを守る最も確実な道」などと訴えました。（「しんぶん赤旗」5月21、22日参照）

原発連ニュース第320号（5月20日）発行しました

道原発連は5月20日付で、原発連ニュース第320号を発行しました。ご一読を。

小説『大地の歌ごえ』のご購読の呼びかけとご注文のお願い

原発連ニュース第320号（5月20日）に小説紹介の囲みを掲載しましたが、福島原発事故被災者の苦難と闘いを描いた作家・たなかもとじ著の「大地の歌ごえ」を「原発連で普及してほしい」と会員から要望が寄せられました。つきましては、ご購入を呼びかけ、普及することを考えました。ご注文部数を原発連でとりまとめ、普及したいと考えています。

別途、注文用紙を送付します。ご協力のほどよろしく申し上げます。